

## 第 39 回 池田町行財政改革推進委員会 議事録

日時：令和 5 年 3 月 20 日

午後 3 時 00 分～5 時 00 分

会場：池田町役場 2 階大会議室

### 出席者（敬称略）

○委員 9 名：（名簿掲載順）

和澤忠志、宮嶋將晴、山沖義和、丸山史子、瀧澤洋子、村端浩、山崎正治、赤田伊佐雄、辻庄市

○池田町長

○事務局（総務課） 2 名：

宮澤達（総務課長）

塩原長（企画係長）

（司会：宮澤達）

### 1. 開会（丸山副会長）

### 2. 会長あいさつ（山沖会長）

本日は最終答申を町長に渡し、これに基づき我々が込めた思いというものに関して町長と意見交換を行う場とさせていただく。

また、町長あるいは町役場の職員に対しては我々が真摯に取り組んだこと、また、町民の皆さんの理解の一助とするためにニュースレターという形でまとめている。こちらの資料についてはすでに皆さんに示しているが、もう一度読み直し、最終決定したい。

こちらの資料については、来年度以降、池田町のために役立てていただきたいと思っている。

今日は、将来に向けた忌憚のない最後の意見交換をお願いしたい。

### 3. 最終（第六次）答申

#### (1) 答申書の提出

山沖会長から甕町長に答申書を手交

#### (2) 町長答申書受け兼挨拶

委員の皆さんには長時間にわたって審議し答申をしていただいたこと、ご尽力に厚くお礼申し上げます。答申について、各項目各分野にわたり 1 つ 1 つ精査し、更なる財政健全化に取り組んでいきたい。

#### (3) 会長 答申内容説明

内容を読み上げ、説明。

#### (4) 町長と懇談

##### 村端委員

町長には、この答申をどのように受け止められたかを改めてお聞きしたい。我々は、この6回にわたる答申は池田町の財政健全化のスタート地点であるという思いが強い。

行政としては、これらの答申を手引きとして、財政健全化の出発点の土台にしていけるのか問われている。予算編成を進める中で、財政危機という状況は脱したのではないかと、いうニュアンスにとれる発言も出てきた。しかし私たちの考えはそうではない。依然として厳しい状況にあり、まさにこの答申はスタートだという認識だ。

これらの答申を、本当に財政健全化の土台として具体的な施策に反映していただけるのか、町長の決意をお聞きしたい。

##### 壺町長

一番の課題であります人口減少、特に少子化がこの町には大変重くのしかかってきているという認識である。またそれに加え、公共施設の老朽化も否めない事実であり、現在の財政状況というよりも今後どのようにしていくかが、答申にもあった通り非常に重要な部分であると思う。

現状分析等あるが、それはそれぞれ感じ方があり、決して職員が危機感を持っていないとは考えていない。大きな危機感を持っているが、削るという部分では非常に難しい時代であり、人件費は増大の傾向にあり、その他物件費また扶助費、補助費等も今までも抑えるべきは抑えてきたがおそらくこれからは上がる傾向にあるだろう。公債費に関しては今のところ6億円前後で推移しているが数年後には5億円を切り、計画的に減っていく。これに対して今後の事業が及ぼす影響を検証し、俯瞰的に見ながら取り組まなくてはいけないと考えている。

そんな中、増収面でふるさと納税がここ2年間続けて1億円を突破し、昨年度よりも今年度さらに伸びたということは職員の努力として私も非常に評価しており、総合計画で2200万円のふるさと納税の予定であったが今年度は1億2200万と1億円オーバーしている。これは大変貴重な財源として、これから活用させていただきたいと考えている。

前述の通り、削るという部分は非常に難しく、人口減少が減収にも繋がるため、それを埋めるべく増収をどのように進めるか十分検討し対策を講じていかなければならない。

また提出された最終答申に沿って検討を進め、答申内でも指摘のあった長期的な目を持って行財政を見ていきたい。今までも様々な角度から答申をいただいております、この答申を土台として一つ一つ精査し取り組むべきは取り組む姿勢である。

## 村端委員

今のお話では、かなり抽象的でよく分からなかったところがある。例えば、この答申を受けて、これから行財政改革を進めるにはどうするかとなれば、行政自身が具体的なプランを持たなければいけない。それをまた評価検証する機関が必要である。

その意味で、行財政改革推進委員会はこれで終わるのではなく、次年度以降も引き続いて設置し、絶えず検証・見直しを進めていく必要がある。ところが3月議会の中で町長は既にそれとは異なる先取りの発言をされている。その点をどう受け止めるかお聞きしたい。

## 壺町長

検証についてはご指摘の通りと思う。どんな形にするかは今検討中であり、またここで議員議会の構成も変わり、新年度ということで職員の体制も変わるので、検証あるいは評価についてどんな形にするかは今後の課題とさせていただきたい。

また後期の第6次総合計画がこれから始まるのでその中でも十分検証ができると考えているため、そのような話をさせていただいた。

しかしながら、ご指摘もいただき、改めて評価検証するための仕組みをこれから考えていきたい。

## 山崎委員

町長の話の中でも開口一番、人口減少・少子化が喫緊の問題であるとあった。まさしくこれは国を挙げての国際的なレベルの問題であり、この事が日本国そして池田町にとっても、最大のテーマである。謳い文句だけで終わってしまったならば、何もならない。

その点に、町長は私達の答申も含めて今現在、何にアクションを起こそうとしているのか、新年度の少子化対策人口減少対策について、具体的なプランを今日発表していただきたい。これは小手先では解決しない問題であり、だからこそ、町長のリーダーシップが発揮される場所である。

やはり財政が厳しい状況の中で、そのお金を何に投資して池田町を発展させていくか、希望ある町に持っていくのか、今の決意と新しいプランを提示していただきたい。

## 壺町長

お答えしますけれども、今どうするかというプランは現実的には持ち合わせていない。新年度にはプロジェクトチームを立ち上げて、人口減少問題、また少子化に対して、広く町民の皆さんのご意見も伺いたい。はっきり言いまして、行政ではもうやるべきことはやっているつもりであります。これ以上どうやって止めるかということに対して、大変池田町は難しい問題を抱えており、そういう点からいくと、大勢の皆さんのご意見をいただいて、その中から汲み上げて、人口減少問題へ取り組んでいきたいと考えている。

## 山崎議員

街中を歩いていて、ある方の意見に少子化対策は本当に喫緊の問題であり、是非行政はアクションを起こしてほしいとあった。

そこで以前話題に上がった岡山県の奈義町の話です。これを私は過去の答申の中で申し上げた。しかしながら、そのことについて、その後アクションはないわけだが、これは本当に今、池田町が学ぶべき市町村です。行政は謙虚に学び、そして行動を起こすべき。出生率が2.9倍という驚異的なところではないか。こういうことに目を付け、包括して行動を起こすことが、今池田町に求められていることだと私はつくづく思う。

なにも難しいことや、プロジェクトチームを作るという話もあったがそういうことではなく、今もう日本にはそういうモデルもあるわけです。なので、行政そして議会、また町民の方も含めて、そういうところで研修をする。スマホ等でインターネットを見ていただければわかりますが、データや色々と子育ての素晴らしい内容が出ている。いわゆるトータルプランで、全てにオールラウンドで町が応援する。池田町は9000人ちょっとの人口だが、そこは6000人に満たない町であり池田町よりも小さいわけです。しかしながら、町民全部が本気になって、少子化は私達の問題で他人ごとではないと、そのような意識、気運ができています。そのことを私は前回も述べたものの、その後なんの動きはないが、このことについて、私はこだわっていきたい。このことを研究し、研修し、そして池田町に取り入れたらどうかということだ。

今一番の問題であるならモデル地区に行って、そのことを学ぶこと、その謙虚さが大事だ。子どもは私達の町独自でやる。それはもちろんです。しかしながら、先端を行っている町村の学ぶべきところを学び、それを自分の町の発展に活かしていくことが大事ではないかと、私はつくづく感じる。

学んでいくのか、それとも失礼な言葉であるが無視をしていくのか、スルーしてしまうのか、その辺の町長のお考えを、お聞かせいただきたい。税収の問題も含めて、そのことについて、私はそこが今日一番聞きたいところであり、一番大事なところかなと思う。

## 齋町長

まさに今ご意見いただいた通りで、これから皆さんのご意見を一つ一ついただきながら検証、調査研究して、どのようなやり方が池田町にあっているのか研究していかなくてはならないと考えている。そのためのプロジェクトを立ち上げるということであり、委員の言う奈義町もその対象にして研究して参りたいと考えている。

## 山崎委員

今日の意見の中では、奈義町に研修に行くという結論というか、決意があるということではよろしいか。

## 麩町長

そこまでは申し上げません。研究をするということで必要とあれば視察等あるかと思うが、十分情報をとりながら、池田町にこれが適合できるのか、研究していきたい。

## 赤田委員

1年10ヶ月、この活動をしてきて感じたことだが、委員会の答申を受け止める、役場の体制ができていないのではないかと、少し違うのではないかと温度差を感じてしまう。町長は職員に危機意識はあると言うが、何かと答申に対する反応を見ると、そんなに重要な視点になっていないのではないかと私自身は感じた。

財政再建はもう短期勝負。令和8年という期限を区切っているが、そこまでにある程度結論、結果を出さないと、年がら年中、これから永遠にこの問題に取り組むことはできないと思う。

町にお願いしたいのは、もっとスピード感を持ってやってほしいということ。最近の例でいくと、かえでの隣の土地の入札をこれからすると出ているが、私にしてみれば、2年3年経ってなぜ入札なのか。あの内容で入札するのなら、もう即入札をすればよかったのではないかと、2、3年間無駄になっているのではないかと感じる。

それから池田工業高校も、これからどうなるのか町民は気にしていると思うが、池田工業高校を含めた3校が1つになるということはもう避けられない。新聞報道を見ると、松川村の村長が積極的に、土地が余っており、空いているところがあるから誘致しますと言っているところを見ると、もし池田町が本当に高校の誘致を考えるとすれば、どう見ても地理的な弱さがあり、もっと積極的に動いていかないと池田町に高校を持ってくることが私はできないのではないかと感じる。

先ほどスピード感と申し上げたが、受け身でいて結果が出るのと、積極的に仕掛けて結果が出るのでは、私は同じ結果でも違うのではないかと感じる。やはり役場も、もっといろんなところで仕掛けていってもいいのではないかと。

プロジェクトを作ることは一向に構わないが、私は池田町の職員の力の中で、もっといろんなアイデアを出して、こっちから仕掛けるということがもっとあってもいいのではないかと感じる。スピード感を持つこと、それから仕掛けていくことが、これからの池田町に、役場の中に求められているのではないかとこの1年10ヶ月の間に感じた。

## 麩町長

商業利用のことで話があったが、これはその間に水面下でいろいろな話があり今回の公募まで踏み切れなかったという事情も内面的にあった。

今いろいろ町の中に町有地があるが、これも様々な話が次々と湧き起こっていた。しかし、なかなか結びつかなかった。唯一、上原商店跡地にいくつもの話があった中、最高の

形でコメリさんに来ていただける結果に結びついて本当にほっとしているところである。

町有地の処分といってもなかなか難しいところがあり、その他の町有地については全部処分して、今全部家が建っている。これは人口増に確実に繋がっているかと思う。あと残されたのは商業エリアと北保育園の跡地である。北保育園については、建物の解体を新年度できるかどうか今見積もりをしているところであるが、その後住宅地として開発していきたいと考えている。

また池田工業高校についてはこれから懇話会の立ち上げがあり、今からどうこうという問題ではない。松川村長は言いたい事を言っているだけで県の考えとは全く違い、いくら働きかけをしても、懇話会が立ち上がらない限りは動くものではないと考えている。

また話にあった、短期で成果をあげるというのは無理である。なぜかというと公債費が毎年6億円前後でずっと推移していくので、今できるのは今後において公債費をできるだけ抑えていくことであり、今すぐ公債費を下げるというわけにいかない。そう考えると公債費の返済が進んで減っていかない限りは、数値的に改善というところには行かない。

また先ほど話したようにその他の経費については、もう抑えようがないぐらい上がってきており、公債費の減少を期待したいと考えている。

## 和澤委員

私も考え方の点において統一しなければいけない気がしている。無駄や削るものはないとなると財政改革はできない。財政改革というのは、今かかっている経費を削るということで、これは勇気と決断でできる。

ただ収入を得るということは、簡単にはいかない。これからの国の財政を考えたときに、交付税は減ってくるのではないかという時代には、今あるものをいかに切り詰めていくか、という考え方に方向転換しないと財政改革はできない。

例えば、会染小学校と池田小学校を統一するとか、会染保育園の新築は無理だというような課題を大胆にスパスパッと決めていかないといけない。今言ったようにその経費は跳ね上がるから、細かいところをやってもあまり効果がないが、大物の会染西部の非農用地に町の人が期待して6億円をかけてもいいという認識自体が将来の設計に合わない。だから、今ここで決断すべきは細かいことだけではなく、大物の施策をバサバサと切って歳出の削減にどんどん進んでいく。小学校統一にしても1年ではできず、3年5年かけてようやく実るわけだから、そういう大改革に早めに着手していく必要がある。

そうでないとこれからの町の運営はできない。見解の相違はしょうがないと思うが、私は財政改革委員として本当にその辺が重要なポイントだと思う。

## 壺町長

会染保育園、会染の非農用地の話が出たが、保育園については皆さんの賛否両論があつてなかなか決められないという部分がある。少子化という問題もあるが、これは手順に従

って皆さんのご意見を伺いながら、説明会も行っており、そこでの意見を吸収して、いずれにしても令和5年度中に方向性を示す。私がここで統合するとか建て替えるとかそういう話ができる場面ではなく、皆さんの意見を聞きながら結論を出すということをご理解いただきたい。

小学校の問題についてはまだ全然そんな話ありませんし、どうするかはまた町民の皆さんのご意見を聞きながらいつ何を投げかけていくのか、いつどうするのか、あるいは2つの小学校を活かすのか、その時期が来たらまた皆さんと協議を進めていきたい。

## 和澤委員

我々が考えるのは将来5年後10年後、あるいは今の世の中がどう変わっていくのか、これを適格でないと時代に遅れてしまう。

例えば、地方交付税である。これが20億あるが、本当に今後も20億が保証されているのか。今の世界の状況を見れば、これも当然削られてくるだろう。例えば2億削られたら何かを削らないと池田町は予算がたたない。だからそこまで考えていかないといけない。

今見られるように、ふるさと納税額も1億上がってきており今後も増えてくる、あるいは地方交付税も今まで通りという前提のもとで考えることは、とても危険である。第三次世界大戦が起きても不思議じゃないと言われ、日本の国の財政も日本政府が潰れたって不思議じゃない、という時代の中で将来を考えて、いつこういうことがあってもいいように対応を早くしていかないと、これまでの見通しの中で経営をしてはやっていけない。

町長はそのところはどのように考えているのか。

## 齋町長

将来どうなるかまでは決して予測ができない。ふるさと納税も今のままいくとは考えておらず、地方交付税は国の政策いかんというところがある。経費を削るところはもう十分削っている。あとは最初に話し、今議員のご指摘にもあったように、これからの事業をどうするかの問題で内部的には決められない。会染の西部の非農用地については今のまま決めるとすると相当な費用がかかるので、県国とも調整し、本当に苦しみながら、どうやって最小費用で土地を利用するのか今考えている。

結論が出ないから何もしてないというわけではない。その結論があまりにも現状の財政の中では無理があり、それをいかに縮小するか今協議をしているところですので、ご理解いただきたい。

## 和澤委員

少子化対策のプロジェクトチームを作るとのことだが、どんな内容なのか。庁内に作るのか、町民を巻き込んで作っていくのか。庁内だけのプロジェクトチームというのは、今まで作っても活動が見えず、やっているかどうか分からない。

これまでもどういう形で、どのように考えて、何を合理化しているか町民には訴えがない。本当にやっているのか、ただ立ち上げてお茶を濁しているのかよく分からないが、今度の少子化に対するプロジェクトチームはどんな内容、規模で考えているのか。

### **麩町長**

先ほど話したように町民の皆さんの意見を吸い上げるということなので、庁内ばかりではなく、町民の皆さんを含めて検討する。はっきり言って行政の中では、もうアイデアが行き詰まってきていると私も感じており、先ほど山崎委員からもあったように他の皆さんのご意見をいただき、検討していく必要があるだろう。

### **和澤委員**

町民や役場職員の割合、具体的な人選について聞きたい。

### **麩町長**

答申にあったように委員会が10人以内ということでその範囲で、どんな構成にするかこれから決めていく。

### **山崎委員**

今日はもう行財政改革委員会の最終答案ということで、総括的な話にもなると思うが、町長とも2年弱の間、こういう議論を交わしてきた。その中で喫緊では八十二銀行が松川村へ移転になってしまう。また今も話に出ている安曇野3校が併合する中で、池田というかたちが、池田の地域というものがなくなりつつある。こうなるとやはり積極姿勢が必要である。

庁内では意見は出尽くしたというが、100人前後の職員がいれば、そんなことはない。それ相応の知性を持った方がいるわけであり、その中で意見を吸い上げ、ボトムアップで意見を出す積極性が本当に大事である。

穂高では皆さんご存知のように穂高商業のところには、土地がないという状況で、駅前には近いが、移転はちょっと厳しい状況である。松川村政ばかり持ち上げるわけではないが、松川村長は松川村には駅前の近くに土地があるとアクションしている。

行政というのは積極姿勢やまずやる気を見せることが必要。町長に求めるところは、決断と実行である。議会でもそういう意見が出ている。リーダーシップももちろんその中に含まれるが、みんな球を町民やプロジェクトチーム、委員会に投げてしまう、そういう姿勢、踏襲が申し訳ないが見える。

池田町は衰退の一途だとの声も結構ある。八十二銀行の問題はもちろん、池田工業高校の問題も単なる池工の同窓会だけの問題ではありません。松川村長の誘致へのアクションは素晴らしいと、私は感じている。



町長に私達はついていくぞと思わせる積極的な姿勢、池田町の町民に訴える力を感じるそんな町政を行ってほしい。何でも何か問題あると町民の皆さんにプロジェクトやアンケートで聞くのではなく、聞くことはすでにしてきており、リーダーとして決断をするときが迫っていると思う。これを遅らせたことでいرونなところに弊害が出たことも事実で今までのように延ばしていいわけではない。必ずリスクもあるわけだが、やるべきはやるべきにはやらなければいけないのが、大黒柱である。

行政に関わるリーダーとしての姿勢をもう1回伺いたい。

### **麩町長**

私は決断するときにはしっかりと決断しているつもりである。ですから今までも事業についてはいろいろな課題があったが今日まで来ている。結果として財政にかなり影響を与えたことも事実だが、これからはしっかりと時期を見て決断をしていく。

速く動くというご指摘だが、私は決して動きが遅いとは思っていない。これはいろんな内面的な事情があり、動けない部分と動ける部分がある。表には出ないが、動けない事情も多くある。いずれにしても積極的に動いていくという姿勢を私は持っていると考えている。

### **丸山副会長**

少子高齢化に関わって、先ほど山崎委員、赤田委員からも出た池田工業高校関係の話で、たまたま町長から懇話会が立ち上がらないと、この問題は進んでいかないとのことなので、ここでお願いを申し上げたい。

現在、池田町には池田工業高校、安曇養護学校の2つの県立の学校がある。先程、池田町程度の人口の街を見てみたら、富士見町には富士見高校と諏訪養護学校があり、ここも県立の学校を2つ抱えている。そして下諏訪町には歴史はまだ浅いが向陽高校と花田養護学校がある。また木曾町には木曾青峰高校と木曾養護学校がある。

やはりそこに通ってくる児童生徒は町内の児童生徒もいますし、町外も結構多い。特に安曇養護学校は町外から大勢通っていて、校舎の状況もいっぱいだという話である。池田工業高校では、ついこの頃合格発表があったが、まだ定員に余裕があるため、再募集を数日やると聞いている。実に先生方は熱心に生徒へご指導されておられ、生徒も学力をつけて、卒業していくという話を聞いている。

そこで今回県では、少子化の波を受け、高校の再編ということで安曇野3校を1か所という案を出してきて、先般説明会も行われた。その点について、ぜひ歴史と伝統のある池田工業高校はサテライト校として存続できるように、この懇話会の中で要請を力説していただきたい。

やはり池田工業高校には池田の農業実践学校として大変な歴史がある。そして広大な敷地を持っており、建築、機械を学ぶには十分な設備も整っている。これらを3校1か所に

集めることは大変な費用もかかり、広大な敷地も必要かと思うが、何とかサテライト校として存続するよう働きかけを町長の力で進めていただきたい。

特に池田工業高校の場合には、地域の皆さんとの繋がりが大変強い。地域の工場や私塾へ行き、そこで学び、学んだことをまた学校に戻って、次の学びを進めるという大変熱心な勉強をしている。そういう生徒の力や先生方のお力もあるかと思う。

町外から多数通学している生徒1人だけではなくて、その生徒の裏には家族がいる。そして家族の裏には、親戚や近所の方がいる。池田町の存在をしっかりと地域に、池田町以外の方々に、お伝えいただく。うちの子供は池田にある学校に行くと大変良かった。地域の人に大事にしてもらって、これだけ力をつけて世の中に出してもらえたとか、いろいろ池田町の風評を聞く。

たまたま池田工業高校で会議があったときに、あるお母さんと話したら、その方は松本から子供を池田工業高校へ通わせている方でした。今現在池田工業高校で学んでいる方のお兄さんも、池工で学び、とても環境が良く、先生方にも一生懸命ご指導いただき、地域の方も協力してくれた。そして、弟もその兄の姿を見てここを志願して現在学んでいますと、とても明るい声で元気よくお話くださった。

そのように、地域の学びの拠点となっている高校を、ぜひ池田町から失うことがないように強力にお伝えをいただければありがたい。人口増も含めて、1つの大事な接点になる学校かなと思う。

安曇養護学校のことも一言申し上げれば、地域の学校と連携しながら一緒に伸びていくという姿勢が見られる。会染小学校、池田小学校そして高瀬中学校とも時間を共にして、こちらから出向いたり、また養護学校の生徒さん児童さんを学校に迎えたりと交流が充実している。インクルーシブ教育の手本になっていくとも思うので、ぜひそこら辺のところ、心にとめていただければありがたい。

## **養町長**

懇話会が立ち上がり、私が行政からの代表として参加する予定になっている。十分委員のお気持ち、ご意見わかりました。町民の皆さんの気持ちも把握していると思っているが、以降残るようにしっかりと運動を展開していきたい。

## **丸山副会長**

下諏訪に初めて高校ができたときに、町民の皆さんは本当に喜んで、町外から通う生徒をみんなで迎えようと、大きな横断幕を掲げて生徒を迎えたという。何とか池田町でも池田工業高校で学ぶ生徒、保護者の皆さんに、池田町が大歓迎していることを伝えるべく、本当にささやかだが、1丁目の高齢者の方の力も借りて卒業や入学を祝うメッセージを花で飾った少し大きめの掲示物にし、池田町、池田町教育委員会と名前を入れ、学校の会場に掲示していただいている。そんな形で、みんなで迎えていければいいかと考えている。

## 山沖会長

これまでの私の経験では、行財政改革あるいは財政健全化は総論賛成、各論反対というのが一般的である。財政については絞って健全化しなくてはいけないと皆が頭の中で分かっている者の、各論になるとどうしてもそのプロジェクトを実行しなくていいのか、してほしいという思いが強くなり、なかなかうまく進まない。先程から、山崎委員や和澤委員からも話があった通り、行財政改革は悪者になることになるかと思うが、これはまさに通らないといけない道であり、将来の池田町のために重要な課題の1つであると考え、これこそ全体バランスを見ている町長の方で決断と実行をして進めていただきたい。

6回にわたり答申を出してきたが、これらの大項目についてしっかりもう一度読み直し、全部をやることはなかなか難しいかとは思いますが、今後の池田町のためには悪者になっても進めていかなくてはいけないという思いで、ぜひとも行財政改革、財政健全化に向けて実行していただきたい。どうぞよろしく願いいたします。

それではこれで終わりにさせていただきたい。今日は町長にはお越しいただきどうもありがとうございました。

## 鹽町長

最後に、皆さん方の本当に長時間長期間にわたるご協議に対して改めて御礼申し上げるとともにまたこの委員の皆さんの中には町会議員に立候補される方もいらっしゃるということで、ご健闘をお祈りしたいと思いますし、また委員の皆さん方には、これからますますご活躍、ご健勝を祈念したい。

行政としてもしっかりと取り組んで参りたいと思うので、皆さん方も、町のためにこれからもご尽力いただくことをお願いいたしまして、本当に心からの感謝と御礼をさせていただきます。誠にありがとうございました。

## <休憩>

## 4. 振り返り

## 山沖会長

後半は今日までを振り返って、皆さんから委員会活動について意見をいただければと思う。先程の話では新たな行財政改革推進委員会を作ってくれるかどうかは今ひとつわからないが、少なくとも検証評価は必要であると町長もおっしゃっている。今回の話も踏まえて、新しい委員会あるいは検証評価の参考にしていただくということで、総務課長、あるいは塩原係長には、よく聞いていただき次年度に繋げていただければと思う。

## 赤田委員

1年10ヶ月、委員として出させてもらい感じたのは、委員会の熱い思いを町長や役場がどの程度本気になって受け止めてくれたのか、ということがいちばん気になった。

先程の町長の話の中で、もう削るところは削り、これ以上削りようがないという言い方を盛んにしているが、私は違うと思う。町長がそれを言ったのでは、課長さん以下、下向いて終わりだと私は思う。委員会の熱い思いを、町長や職員がどのように捉えてくれたのか。企業風土というか職場風土が変わったようには、私は正直見えなかった。もっと受け入れ態勢を役場で作っていかないと、プロジェクトチームを作ろうが、アンケートを取ろうが、意見を聞こうが、聞いたということを実績にしているきりで、少しも前に進まないのではないかと感じた。

私自身もこの委員会に参加し、いろいろ勉強させてもらった。例えば、町長の話の中に、職員は責任がないから給料の減給は求めないという言い方を盛んにしていたが、ではしわ寄せを受ける町民に責任があったのかとなってしまう。民間企業なら財政危機で資金繰りできなければ、明日倒産、働く場所がなくなる。失礼な言い方かもしれないが私はちょっと甘さを感じた。

公債費率がすぐには落とせないことは私自身もわかっている話だが、財政再建と未来永劫言っているのなら、池田町の将来はないと思う。だから本当にやるなら令和8年までに徹底的にやるべきことをやって、そこからは大きな判断基準じゃない状況にしなければいけないと感じた。いろいろと長い間ありがとうございました。

## 山崎委員

文学的な言い方になって申し訳ないですが、私はまず本当にここにいる9人、それから卒業された先生2人と出会えたことに喜びを感じている。

自分自身もこの1年10ヶ月の中で、大成長できたか、少しなのかわからないが、自分自身が何か1歩でも行政と関わって成長できたと思っている。

そういう中で、自分ごとで申し訳ないが、4月の町議会議員選挙に立候補することを決意した。2年前にこの行革委員会の立ち上げたときにはそんな思いはなかった。しかしながら、1年が経過し、夏を迎え、本当に池田町がこの状態でいいのか、私が今までやってきた教育だけで人生を終わらせていいのか、という自問自答があった。そうではない。自利に生きるのではない利他に生きるのだと、その決意が私の今回の議会への挑戦になった。

そういう意味で、赤田委員からもまた細かい指摘等あったが、今後私は議会議員として、和澤議員とともにしっかりチェックし、そして町長の襟を正していく。このことが行革委員になった私の今後の使命だと自覚しているところである。

この行政に臨まれるのは決断と実行、先延ばしではない。いいことは取り入れて動く、アクションを起こす、勉強し研修を行う。それらを行いかに行うかが池田町の今後に関わるターニングポイントである。

本当にこの9人に出会えて、また卒業した2人を含めて11人に出会えたことの喜びを感

謝に変え、今後の人生、議会活動に反映していく思いである。

### **村端委員**

この委員会に参加して、いろいろと調べたり情報提供をしたりしてきたわけだが、こんなに長く、また頻繁に開催される会議になるとは思わなかった。40回近く委員会をやり、その間にまた部会があり、私生活にも影響が出て、ちょっと困った。何しろ議事録を作らなきゃいけないという強迫観念があり大変だった。

これだけの議論を経て出した答申は、池田町の歴史上かつてなかったほど優れたものではないかと思う。

今後これを本当に実行し、実現していくことができるかどうかは、まさに行政とそれをチェックする議会の役割ということになってくるのではないか。

皆さんとこれだけ議論を重ねられたことは、大変貴重な経験になった。

### **瀧澤委員**

この約2年間で問題解決に向けて課題達成能力に磨きをかけていただいて、それらに対しての行動を起こせる能力が必要かなと強く感じた。私はこの委員会に関して何の役にも立てなくて大変心苦しく思っている。しかし、行政から出された多くの資料それから私以外の8人の委員からは多岐にわたり学ばせていただいた。

今後、ふるさと納税制度の充実に向けては、私もアクションを起こせるのではないかと思う。特にアンチエイジング食材として優れているガーデンハックルベリー、目に効力のあるアントシアニンその他の成分がブルーベリーの数倍という、食材を活用して魅力ある特産品の開発に取り組む所存である。

これに対して生産者の会を立ち上げ、今年の1月に総会を行い、規約の制定やその他の書類の作成、役員選出等を実施して、2月3日には長野県工業技術総合センターに今まで作ったジャムやビーズ、酵素等を持っていき、成分分析をお願いした。2月22日には役員会を開催し、3月10日には地域発元気づくり支援金を県に申請した。3月16日には工場との懇談会をした。4月7日には保健所に製品開発上の注意点についてご指導いただく。今後、委員の皆様や行政サイドにご指導を賜ることがあると思うが、その節はよろしくお願いいたします。

私としては、この件を成功させて、ふるさと納税制度の充実に一役買うために最大限の努力をしたい。2年間学ばせていただいた恩返しをしたい。

### **辻委員**

私の場合は大野先生の交代ということで、1年間という期間、皆さんの半分、委員をさせていただいたが、池田町の実情とか個別の経緯に詳しいわけでもなく、あまりこの委員会の運営に貢献できなかったことについては、反省しておりお詫び申し上げたい。

次に参加して感じたことを、2点ほど申し上げる。1つ目は赤田委員と似た感想になるが、委員会が熱心に議論してまとめた答申が、町長にどれぐらい響いているのかは暖簾に腕押し、皆かなり徒労感を感じているのではないか。私も似た感想を持ち、町長、職員に我々の思いがどれぐらい伝わっているのか、疑問を持たざるを得ないというのが率直な感想である。

それから2つ目にこの議論に参加して感じたことは地方自治体における行財政改革はやはりなかなか難しい。皆さんご承知の通り、地方自治体の財政運営については、総務省のもと地方交付税や国庫補助金で相当手厚い財源保障がされている結果、結構放漫な財政運営をしたとしても、結果としてそうした制度で救われてしまうところがある。もちろん財政健全化のための仕組みは法律であるわけだが、余程ひどいことをしない限り、破綻したり、あるいは早期健全化の基準に達したりすることはない。その辺りの財源保障がされすぎていて故に、なかなか地方自治体における独自の行財政改革は難しいところがあるのだろうと感じた次第である。

## 宮嶋委員

この委員会は財政逼迫というところから始まったわけだが、私どもはそれぞれ健全財政を目指して、必死に討論をして答申を出したが、今出ているように受ける理事者、行政側の財政危機の意識に私どもと非常に差があり低い。ですからこの答申を正面から受けて実施できなかった、ということが私は非常に残念である。

会長が当初おっしゃった通り改革には痛みが伴う、しかし最初から理事者は痛みを伴うような改革をやる気はなかった、と今日のやり取りを見ても痛切に感じる。今でもその思いはないとそういうことである。それでは行革はできないと私は思っている。

いずれにしても午前中のやり取りを黙って私も聞いていたが、糠に釘のような人にもものを言ってもしょうがないと、もう数ヶ月前から私は諦めている。

理事者は自身で決断しない、プロジェクトを立ち上げる、町民に聞いてみる、これでは、理事者に今池田町が求めるトップの像ではない。

池田町に必要なのは、自ら自分の政策で、決断で、実行で、職員町民を引っ張っていく。これが今、リーダーの求められる道だと思う。そういうところがないので、行革も池田町も一歩も進むわけがない。この町政が続くならば、池田町は沈没の一途だと思う。松川村長のように松川に池田工業高校を誘致しようとマスコミを、花火を打ち上げる。この姿勢が理事者になんといけない。懇話会だ何だと言っているようでは駄目だと私はつくづく思う。

それはそれとして行革委員の皆さん、本当に39回それからその間に総務部会30回以上、熱心に行われた歴史に残る委員会だったと皆さんに敬意を表しながら、2年間本当にありがとうございました。

## 和澤委員

私も今思い出すと、議会で行財政改革推進委員会ができるという話が出て私は手を挙げた覚えがある。やはり今議会の中で必要な要素はこの町の立て直しということで、例えば議長副議長よりも仕事が多いと判断したわけだ。

だから手を上げたが、地域各ポジションの専門家にいろいろお聞きして私自身も十分勉強するつもりだったが、ちょっとさぼっていて十分できなかったと反省がある。けれども、やはり私が一番感じるのは、宮嶋委員、村端委員によって冊子を製作いただいた。これも活用し、いかに町の将来に向けて、行政町民合わせて改革をするという雰囲気を作り出していかかが、議会の1つの仕事だと思っている。

町民の皆さんが5年後10年後も本当に安心して暮らせるような町にしてもらいたいで、今の行政や町長を諦めても、町民が困らぬように、町民のためにもう一度議会が将来の町の町民がいつまでも何があっても生き延びられるというような状況を作り出していかなければいけない。我々のできることはどんどん行い提言していくと、思いを新たにしている。

私は充実して議員の仕事ができたと感じる反面まだまだやり残したことがあり、これから本当にやらなきゃいけない。自分の信念をもって、相手が誰であろうと、行っていかないとはいけない。

世の中はこれから大きく変わろうとしている。変わるということが良い方向に変わるとは思うが、その中で新たに再出発する、本当に一からやり直すと、人に頼らない自治会あるいは議会、町民を作っていくとはいけないと思っている。

いろいろ勉強させていただきありがとうございました。

## 丸山副会長

本当にお世話になりました。未知の部分もたくさんあったが、委員の皆様が発言を聞く中で、勉強させてもらった2年間だと思う。勉強したことをこのままにせず、地域でできることに関わっていききたい。

これだけ内容の濃い委員会は、初めてだった。やはり勉強している委員の皆様の日々の思いが、今回の行財政改革委員会の場に、はっきり表明されていた。この委員会は閉じますが、何かあったら一緒に考えたり、頼ったりさせていただきたい。

町のことを幅広く学べたことは財産である。私も池田町にお世話になりまして40数年になるが、本当に素敵な町だと思った。春夏秋冬季節ごとに町の行事があり、街の皆さんの交流があり、人柄もいいし、商売も大繁盛で、春のひな市があり、暮れになればえびす講があり、楽しい町の中で生活し子供を育ててきた。

こんな素敵な町の中で、このような難しい問題が渦巻いていることを知ったのもこの委員会であった。これからは町から届く情報をしっかり見聞きし、また図書館や町役場の窓口へ出向いて進んで町の情報を入手し、これからも続けて学んでいきたい。本当にありがとうございました。

ございました。

### **山沖会長**

私からも一言、皆様にまずこの1年10ヶ月、うまく会長の職を務められたかどうかわからないが、最終的には6回にわたる答申を出すことができ、皆様のご協力に感謝したい。

また財政シミュレーションは昔も作っていたようだが、今回はロードマップも取り入れようということで、池田町も行財政改革のための手法を、少しずつ町としても取り入れられることとなったのではないかと思っている。

一つ一つ挙げれば、これはやらないとか、これは意見を聞くだとかあるが、重要なのは今後である。町長は新しい委員会を作るかどうかまだ考えてないとあるが、やはり評価検証をするのは重要なと思う。

町長の話の話を聞いていると、答申が出るとそれをやらない理由を考えるのに苦労するみたいな話があるが、私から言わせるとうまく利用すればいいのにとと思う。要は、先ほどから話があった通り、また、和澤委員もおっしゃっていたが、「行財政改革に向けて削るもの、省く無駄はもうない」というが、改革には痛みが伴うものであり、大変なことである。行革委が言っているから、やむを得ずこういうことをします、というような使い方、理解の求め方を中央省庁ではよくやっている。そういう意味では今後も委員会を作り、提言をさせ、使えるものは使っていく、委員会をうまく利用するのは1つのやり方ではないかと思う。

今後、総合計画の見直し、あるいは行革プランを進めていくことになるかと思うが、今回は、これまでとは違うやり方がかなり入ってきたかと思うが、そういうものも多少使っていたらいいと思う。

本当に皆様のご協力でここまでできた。どうも、ありがとうございます。

### **宮澤総務課長**

まず1年10ヶ月200時間近く、もしくはそれ以上だったかと思うが、私生活まで犠牲にして取り組んでいただきましたことにまずはお礼を申し上げます。大変ありがとうございます。

私も役場に入っているいろんな会議出ているが、これほど深く行財政の問題に切り込んだ会議はなかったのではないかと思います、願わくば塩原係長と同じくらいの年齢のときにこのような会議の担当として取り組みたかった。

また今回初めて財政担当の課長になりましたけれども、役場での異動とかでいろんな部署を経験していくことは、やはり大事なことはないかと思った次第である。

課の中では振興課がまた4月から2つに分かれるが、総務課と企画制作が1つになった総務課は当面、1つの課のまま頑張っていきたい。

繰り返しになるが、2年間本当にありがとうございますと感謝を申し上げます。



## **塩原係長**

私も事務局の立場と一町民の立場と行革委員の皆さんと一緒にやっている立場とで、正直いろいろな意見がありました。ただここで話ができるのは町長トップとした行政マンということですので、最終的には町長の判断で動くことになる。私としては町長の言うところで動いていく。2年間ありがとうございました。

## **5. その他**

- ・報酬について

## **6. 閉会（丸山副会長）**